

2010年4月17日会合議事録

期 日：2010年4月17日 9:45～12:40

場 所：広尾 JICA 地球ひろば 402 セミナールーム

参加者：15名

【実施内容】

- ① アイスブレイク（自己紹介）
- ② Iさんプレゼンテーション「モンゴルとGNH」&質疑応答
- ③ ワールドカフェ
- ④ 報告・連絡事項

1. 自己紹介・アイスブレイク（9：45～）

4つのグループに分かれてそれぞれ自己紹介と、モンゴルと聞いて何を思い浮かべるかを話し合った。

2. プレゼンテーション「モンゴルとGNH」発表（10：05～）

※発表内容は添付資料参照

【質疑応答】

Q. 遊牧民と定住者に対する法制度の違いは？

A. 違いはほぼない。

ただし、遊牧民と都会の生活を比べると、土地所有に対する意識の違いはあるだろう。ゲルを使って遊牧をしている人たちにも郵便は届くので、法や社会制度から孤立した生活を送っているわけではない。

Q. モンゴルではどのような問題に対する裁判が多いのか？

A. 田舎ではまだそれほど裁判は多くなく、地域の話合いで解決されることが多いようだ。都心部では、傷害事件、強盗、契約等のトラブル、家畜の窃盗等さまざまである。

Q. ゲルの人たちにも宗教に対する信仰心があるのか？

A. 遊牧している人たちでも、ゲルの一番奥には宗教的なスペースが設置されている。田舎に住む人ほど、社会主義時代の影響を受けておらず、信仰心も残っているのではないか。



Q. 遊牧民は3割程度しかいないということだったが、他の人たちは主に首都ウランバートル周辺に住んでいるのか？

A. ウランバートルの人口は100万人前後で、人口の約3分の1の人たちが居住している。そのほかにもいくつか大きな都市があるが、2～3万人ずつ住んでいるものと思われる。

2. 休憩（11：30～）

3. ワールドカフェ（11：35～）

プレゼンテーションを受けて、ワールドカフェを行った。

ワールドカフェとは、堅苦しい会議とは違い、カフェにいるときのように気軽な雰囲気で行われる想像力豊かな話合いのこと。



今回はS氏のファシリテーションの下、それぞれテーマが変わるごとにグループを再編して話合いを行った。また、グループのなかで石を持っている人のみが発言権を持ち、他の人たちは発言者の意見に耳を傾けるというルールで行われた。石は随時グループ内の発言者に回される。

【ディスカッションテーマ】

- ① GNHを広げるという視点に立った際、モンゴルとブータンを比較して、どのような点に違いがあると感じる？

[意見]

- ・ GNHは宗教的な考えに基づいており、社会主義時代に宗教を排除されたモンゴルと比較し、今でも強いチベット仏教の信仰心を持つブータンでは、もともとGNH的考えを受け入れやすい土壌が形成されていたのではないかと感じる。
- ・ 適度な経済発展や環境保護を政策上の重点課題としているブータンと比較して、経済発展に伴って環境破壊を引き起こしたモンゴルの発展に対する姿勢に違いがある。



- ② 日本でGNHを広げようと考えた際、モンゴルの社会環境の変化や政府の政策等から、どのような学びがあると感じるか？

[意見]

- ・ モンゴルの遊牧民やブータンの人たちのように自然に囲まれた環境で暮らしていると、自然環境や気候等、人間にコントロールすることができない部分が多い。

ゆえ、計画や約束等が苦手な国民性になるのではないか。

- ・ 「衣食住足りて礼節を知る」という言葉にあるように、GNHという考え方が魅力的に感じるのは、経済的な豊かさを遂げた日本や欧米においてであって、まだまだ発展の余地があるモンゴルにおいてGNHは魅力的にうつるのか。

4. 報告・連絡事項（12：25～）

① カンボジアで活躍されている研究員の紹介

以前、ブータン国立伝統医療院に勤務されており、現在では、カンボジアの国立伝統医療局にて活動を行っている。今回はちょうど日本に出張中ということで、東京の会合に参加した。



② DAWA 翻訳提出状況の確認

前回から翻訳を依頼しておりましたDAWAに関して、提出状況の確認を実施。

③ メーリングリスト確認

メーリングリストが届いていない会員の方がいるらしい。届いていない方は事務局まで連絡を依頼。

④ GNH研究所会合日の提案

今後、GNH研究所の会合は、4月、7月、10月、1月の原則第三土曜日にしようという提案が事務局からあった。しかし、毎回第三土曜日に予定のある会員の方がいるため、引き続き事務局にて検討することとする。

6. 終了（12:40）

その後、地球ひろば1Fのカフェフロンティアにて食事をしました。

以上